

『日中2か国語詩吟』の実践

永平寺 親禅の宿 柏樹閣 禅コンシェルジュ 杉本 紀幸 氏

<概要>

漢詩は、漢字文化の一つとして親しまれてきたが、学校教育・詩吟・漢詩創作等で、平仄や押韻等の漢詩の規則は知識として実際に感じ取れないものとされている。また、漢詩吟詠では、漢字音直読も愛好されてきたが、日清戦争以降、敵性文化と退けられた一方、漢文訓読で悲歌慷慨し愛国主義に訴えるものが多い詩吟は文化芸術活動として生き残っている。平仄や押韻を新しい吟詠で表現したい。直読吟詠に存在した悲歌慷慨型だけではない吟詠を認知させたい。こうした思いで、『日中2か国語詩吟』の作品をWeb上に発表してきた。

音声面の旋律は詩の内容と漢字の声調に沿った中国の伝承吟詠のものを主とし、その旋律にあう伴奏をつける。構成は、その旋律による中国語および日本語漢字音での吟詠と、その伴奏上での漢文訓読歌詞での歌唱としてきた。現代中国歌曲は声調無視の音楽優先であるが、伝承音楽等では各漢字の声調に沿った旋律で歌われてきた。中国語吟詠と同じ旋律で中国語中古音を留め入声字を識別できる日本語漢字音による吟詠を行うことで、日本語吟詠では感じ得ない平仄配置が生み出すリズムと旋律のおもしろみを体感できる。逆に、入声音が消失した現代中国吟詠教育では、入声字の歌い方を「短く急に止める」と指導しているが、更に強調して喉内入声字韻尾にはk、舌内入声字韻尾にはt、唇内入声字韻尾にはpを加えて歌うことで、現代中国語でも入声音を体感できる。

映像面では、平仄・入声・押韻等を色分けした歌詞表示や現代中国語の声調の動きにあわせた旋律となっていることを示す五線譜等によって、音声面での体感を補助している。

<講評>

インターネットという現代的な媒体を活用し、中国語の声調をメロディーに活かした曲を作曲して日中両国語で歌う、という画期的かつ国際的なコンセプトの実践である。杉本氏は福井県から「授業名人」に認定された教育者で、音楽の才能も豊かで、「おれたち福井人」の作詞作曲者でもある。狭義の「漢字教育」からはややはずれるかもしれないが、「漢字文化の普及」の観点から特別奨励賞をさしあげたい。

日中2か国語詩吟とは？

QRコードから御視聴ください。

- (1) 歌詞 漢詩を3種類の歌詞（現代中国語・日本漢字音・漢文訓読）で歌う。
- (2) 旋律 詩の内容と各漢字の中国語声調に沿った旋律で歌われてきた伝承吟詠を採譜したもの。自作や現代人作曲のものもある。
- (3) 伴奏 旋律に合わせたジャズ・ロック・ラテン調等様々な伴奏。



「日中2か国語詩吟」サイト

現代中国語

平声:長< 仄声:短<
仄声:短< 仄声:短<
韻字:替

登鶴閣樓

Huáng hé rù hǎi liú

黄河入海流

平仄（平声・仄声）、入声、韻字を色分けし、五線譜と色線で現代中国語の声調の動きを表示している。

日本漢字音

平仄（平声・仄声）、入声、韻字を色分けし、五線譜と色線で現代中国語の声調の動きを表示している。

コウジョウイツソウロウ

更上一层楼

平仄（平声・仄声）、入声、韻字を色分けし、入声は促音化して歌うようにしている。

漢文訓読

白くじつ やまに よりて つき

白日山に依りて尽き

同じ伴奏内に入らない時はラップ調にしたりしたものもある。

【音階表に使う】

「日中2か国語詩吟」まとめサイト



Youtubeの広告などに煩わされずに視聴できるようまとめサイトを開いた。トップページでは、全作品やメニューから時代・作者等を選択した吟詠を視聴できる。

「日中2か国語詩吟」サイトトップページ



Siteinfoページでは、3作品について、旋律の元となった中国語吟詠を視聴して、日中2か国語詩吟と比較できるようにしている。

「日中2か国語詩吟」サイトSiteinfoページ

各作品へのリンク

【早登白帝城】李白	【静夜思】李白	【贈汪倫】李白	【黃鶴樓送孟浩然之廣陵】李白	【望廬山】杜甫	【客至】杜甫	【絕句四首 其三】杜甫
【讀關三疊】王維	【回鄉偶書】賀知章	【奉餽孟浩然】	【登鶴閣樓】王之涣	【出塞】王昌齡	【楓橋夜泊】張繼	【雜興】杜牧
【題西林壁】蘇軾	【偶成】朱熹	【小池】楊萬里	【遊園不值】葉紹翁	【城下歌】項元	【送孟東野】古詩十九首	【觀者心經】
【柏樹閣】自作	【永平寺川】自作					